

おおくきこども園 自己評価（自己チェックリストより）

※各自が取り組んだ「自己チェックリスト」を持ちより、ケース会議にて現在の実施状況をみんなで確認する。園長、主幹保育教諭のみで行うものではなく、全体で話し合い、それぞれの考えや実践、今後の課題などを話し合うプロセスを大切にしていく。

	令和5年度	令和4年度
第1章 保育の理念	87.5%	90.0%
第2章 保育内容	80.3%	91.5%
第3章 保健・安全活動	87.2%	89.3%
第4章 保護者地域連携	77.0%	79.6%
第5章 子育て支援	76.4%	81.5%
第6章 職務・役割分担	81.3%	84.1%
第7章 職務資質向上	68.5%	71.8%
全体傾向	79.7%	84.0%

自己チェック評価表より

	評価点	課題点	改善点
個人・クラス運営評価	園児の体調や小さな変化に目を配り、笑顔で接した。同室保育教諭と連携をとった。迷った時や悩んだ時、相談したり保育技術を取り入れより良い保育を目指した。自分をプラスに評価できる点が見当たらない。コミュニケーションをとり、連絡事項に漏れの無いよう努めた。保護者からの要望に真摯に向き合い学んだ。日々の保育から行事（発表会）へ無理なく取り入れて保護者へ日常の姿を見せることが出来た。自然（植物）を取り入れた保育が出来た。情緒の安定をはかった。信頼関係が築けた。怪我のないよう安全面に配慮した。楽しく過ごした（子ども職員共に）常に明るく、人間関係も良かった。手作りおもちゃを取り入れた。職員間の連携が良かった。保育環境の見直しを行った。安全面に配慮した。消毒や加湿に配慮した。自主性を尊重する保育を心掛けた。環境整備に努めた。	不意に泣いたりぐずったりする姿に適切な対応が出来なかった。余裕のない保育。手遊びのレパートリーを増やすべく教材等も揃えたが実現できなかった。相手への伝え方。職員間の連携が難しい。体調管理。当番勤務のサイクル。忙しいと子どもたちへの寄り添いがおろそかになった。もっと運動遊びや発達年齢に合わせたゲームなど保育にとり入れると良かった。新しい遊びを取り入れられなかった。マナー。目標が止まった。子どもへの対応が適切に出来なかった。（自己を通そうとする姿への適切な言葉かけ）手を掛け過ぎず見守る事。自身の体力の低下。充実した遊びの保障。優しい言葉や態度が足りない。身なりや振る舞い、所作に配慮が足りなかった。日頃から疑問点や改善点等を積極的に発言し、より良い保	他保育教諭を手本に、言葉掛けや表情など学びたい。明確な目標を持ち、新しい技術を身に付けていく。活用できるものを身に付ける。同立場の職員との情報交換。職員間で積極的にやりとりすべき。笑顔。リーダーとサブの連携、役割分担、めりはり等。仕事の割振りをしてゆとりを持った保育へつなげたい。保育技術向上（遊びの展開、運動遊び、ゲーム等）環境を整える。（主体的な保育可能な材料を整える。）個々へ対応できるように自分なりのまとめを継続する。もっと絵本を取り入れる。疑問点は相談する姿勢。自ら進んで聞いたり調べたりする。年齢別会議を定期的に開催する。（複数担任の良さを引き出したい）園児を把握する。ケース会議の必要性。把握しやすいよう

個人・クラス運営評価		<p>保育を目指したい。保護者、園児共にまだ覚えきれていない。個性が強い子に対し、対応しきれなかった。早退時等、保護者への連絡が漏れてしまうことがあった。噛みつきや引っ掻き等の子ども同士のトラブルへの対応。ぐずる時間帯の改善方法。出勤時刻に余裕のない日があった。失敗したことへの反省、振り返りが足りなかった。季節や年中行事を保育に取り入れたい。</p>	<p>な環境設定（ボードの活用等）遊びのスペース分けの工夫。全体の状況をみて保育する。時間に余裕をもって出勤する。失敗したことはメモし、振り返る習慣をつける。感染症対策が不十分。体調の悪い子のゾーニング等の工夫。（絵本を見る、休ませる等）</p>
園全体評価	<p>体調不良等で職員が休んだ時の協力体制。草取り、窓ふき等の環境整備を時間配分し効率的に出来た。介護事業所くじらとの交流の更なる再開による活性化。書類提出期限の改善がなされた。業務限定職員の意見からの学びが出来た。異年齢間の協力体制。他のクラス運営との協力体制。子どものクラス移動の自由度。園内外の安全点検。気がついたらすぐに調整、改善した。衣装作りや製作物など得意な分野を生かした。製作、ピアノ等保育技術を個々の職員が伸ばしている。個々の子に向き合い保育が出来る。公平に対応している。園全体で個々の子どもの健康状態や情緒面等を会議にて共有し担任以外の職員も関わっている。異年齢保育により年下の子をいたわる気持ちが育っている。</p>	<p>会議開始時間がルーズ。話し合う内容の時間配分。保育や行事の様子が人づてに伝わる事がある。保育士間での温度差を感じる。遊びの提供の充実を図りたい。トイレトレーニングや服の着脱等の身の回りのことへの自立に関する意識。当番保育にあたる者としての自己管理。体調維持。お便りやスライドショー等の業務負担。（方法の見直し）伝達不足。子どもの特性の把握が不十分。整理整頓。遅番時での避難訓練。当番保育時の保育内容の見直し。（紙芝居、エプロンシアター、絵本等の活用）園内外の掃除。子ども同士が呼び捨てにしている。（親も）クレパス、はさみ等の手入れや整理整頓。事故や災害について場面を想定し対応を話し合う。新しい事への挑戦が足りない。基本的な生活習慣を身に付けられるような関り。</p>	<p>園内研修やケース会議など、資料がある場合は事前に渡し、各自で目を通すことにより、読み合わせより話し合いに時間をとりたい。保育や行事の変更は会議等で正しい情報を共有したい。遊びの内容の工夫と展開。業務限定職員の勤務時間変更の確認。（責任者をおく等の改善）職員間の連携向上の工夫。（専用ボードの活用）自ら確認する意識。他のクラスの子の様子も聞き、対応できる体制。定期的に環境整備する（草取り）草刈り機の活用。会議時間が長引くと未満児保育への支障がある。丁寧な言葉で話す。感染症対策の徹底。好奇心や興味がわくような素材や教材を用意する。音楽的要素のある遊びや運動機能アップを図る遊びを取り入れる。体験を広げる。</p>
特記事項	<p>体調への配慮に関する感謝。会議の内容が本題からズレないようにして時間内に終わると良い。処遇関係の話は事務室で行いたい。（秘密保持のため）姉妹園との交流を図りたい。月の製作、行事の準備、スライド製作、書類等の仕事が多い。業務限定職員の勤務時間の明確化。家庭の事情。体力、気力の現状維持について。勤務時間について。</p>		